ひだご坊真宗教化センターだより

2024年7月号

＜慶讃テーマ＞
南無阿弥陀仏
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2024(令和6)年6月27日　第48号　発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番　三島多聞
高山市鉄砲町6　℡ 0577-32-0776　web http://hidagobo.jp　✉ takayama@higashihonganji.or.jp

宗祖親鸞聖人御真骨－高山別院御骨堂「聚霊閣（しゅれいかく）」の由来－

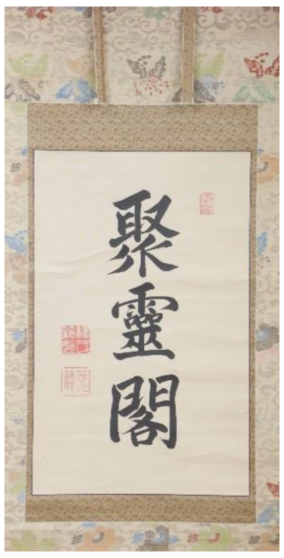
4「納骨堂」の名称②

―厳如上人の御染筆「聚霊閣」の下附

高山別院で宗祖６００回御遠忌法要が厳修された文久２（１８６２）年、本山第二十一代厳如上人が、「御骨堂」の名称に「聚霊閣」（しゅれいかく）と御染筆している。これは、同年２月２７日付の『輪番日記』に、「一、大遠忌ニ付／御門主御筆御骨堂御額」とあることから、高山別院から願い申請されたことが知れる。また、『東本願寺史料』（東本願寺宗学院刊行）には、文久２年２月に「高山御坊骨堂へ額下附」として、

> **飛州高山御坊へ**
> **其御坊　御骨堂へ思召しを以って聚霊閣と御額御染筆遊び下され候あいだ　有難く存ぜられ　なお写しの上　御本紙は　御坊所に永く秘蔵あるものなり**

とある。厳如上人は、宗祖及び歴代上人の遺骨を総括して「諸霊の聚まる高貴な建物・閣」と御染筆されたのであろう。


厳如上人筆「聚霊閣」

「聚霊閣」の本紙は表装され別院で保管されている。しかし、その扁額は現在見当たらず、その理由も不明である。何らかの理由で額の制作までには至らなかったのであろうか。

「土蔵」建立以来、「骨堂」「御骨堂」「納骨堂」などと呼び慣らされてきたが、宗祖６００回御遠忌にあたり、「額下附」（御染筆下附）によって「聚霊閣」が正式な名称であると定められたのだろう。よって前号で示した通り、行政的なものであるが『寺跡取調書』の中でも、明確に「聚霊閣」と記された。また、明治２７（１８９４）年７月、博文館発行の『日本勝地誌』第４編にも、「本堂、書院、食堂、庫裡、鐘楼堂、玄関、聚霊閣（俗に骨堂と称す。宗祖及び慧灯大師等の遺骨を納む)、山門其他塔中九ヶ院あり～」と紹介されている。

今後は、本山より御染筆下附された正式な名称「聚霊閣」と呼称すべきである。名を明らかにし届けることの大事さを改めて思い知らされることである。

また、現在の別院本堂が建てられて以降、須弥壇下への一般門徒の納骨を行ってきている。「聚霊閣」では門徒の納骨を行っていないことからも、混乱を避けそれぞれの性格を明確にするために、これまでの「納骨堂」の呼称は避けるべきということもある。

私たちは久しく、ここに宗祖並びに歴代上人の御遺骨が納められているということを忘れ、「聚霊閣」という名も忘れていた。もし、今般、多宝塔が発見されることがなかったとしたら、「聚霊閣」の前を通りながらも頭礼すらしないでいたことだろう。恐るべしである。

5 漆喰職人・江戸屋万蔵の仕事

天明４（１７８４）年３月２０日、一之町より出火、照蓮寺ほか１１ヶ寺、民家2，２４２軒が類焼し、この時に御骨堂「聚霊閣」も焼失している。

竹田雅文氏（高山2組東等寺住職）の調査によると、『輪番日記』の文政４（１８２１）年１２月２２日の記載に「御骨堂普請諸勘定御拂之事」とあり、再建のため材料費の支払いがされている。文政９年（１８２６）以後天保年間中に修復が完了しているが、これが現在の御骨堂「聚霊閣」である。

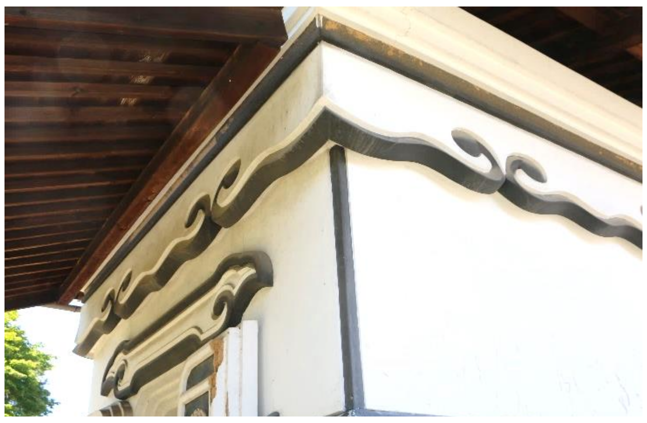
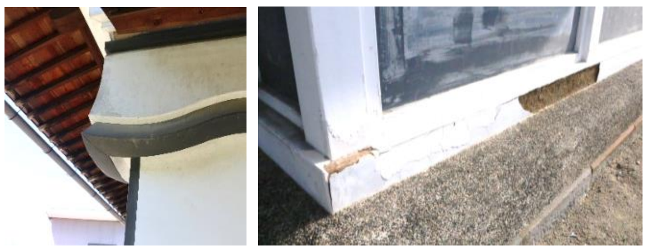
文政８（１８２５）年頃、江戸神田から左官漆喰職人・江戸屋万蔵が飛騨入りしている。高山左官業組合発行の『創立百三十年の歩み』（平成１５年５月発行）に記録がある。

> **その万蔵が、見事な漆喰土蔵を造って見せたのは、高山に身を寄せて間もない頃であった。屋根と壁面の接続する難しい箇所の鉢巻きの美しさ、正面に屋号などを書き入れる「うしまくら」に見る鏝（こて）の冴えは、町衆の度肝を抜くに十分であったし、幅の厚い観音開きの漆喰の扉が噛みあって、薄紙一枚の隙間もない絶妙な手腕に人々は驚きと賞賛を惜しまなかった。**

御骨堂「聚霊閣」にも江戸屋万蔵の手の跡がはっきり残されている。『創立百三十年の歩み』（14頁）には「聚霊閣」の写真が載せられている。

時の門徒衆は江戸屋万蔵の腕に惚れ込み、飛騨の御坊さまの御骨堂「聚霊閣」も格調の高いものと願って、大がかりな再建がなされたものと考えられる。飛騨の蔵の扉は引戸が一般的で、内部に火が容易に入った。防火のためにも再建では観音開きの扉にすることが望まれ、江戸屋万蔵の技に託されたのではないか。白と黒の漆喰を用いた土蔵の装飾（鉢巻）は、他に見ない手の込んだ見事な造りである。

時を経て今、御骨堂「聚霊閣」は漆喰の剥がれなど破損が生じている。宗祖の御真骨をお預かりしているだけに、このまま放置はできないという思いが増すばかりである。


上下「聚霊閣」の鉢巻（漆喰細工）　下 漆喰の破損状況


去る３月２７日、高山市文化財課に、竹田雅文氏の協力を得て御骨堂「聚霊閣」についての説明と史料の提供を行った。「高山市指定文化財」として十分な由緒があり建造物でもあることから、是非指定がなされることを願う。そして、７年後の嘉念坊上人７５０回忌までには御骨堂「聚霊閣」の修復がなされ、正面に「聚霊閣」と扁額が掲げられることを切に願っている。

飛騨御坊真宗教化センター長
高山別院輪番
三島　多聞

★センター・別院からのお知らせ★

第2回企画会議・センター総会を開催　事業報告・事業計画を承認

６月１０日に第２回企画会議、２１日には第１回センター総会が開催され、今年度事業報告、来年度教化方針及び事業計画が承認されました。今後、教区教化委員会、教区会及び教区門徒会、院議会を経て次年度の取り組みのスタートが切られます。

なお、現在企画会議では、各組を巡回し教化の現状について意見交換を行う「企画会議懇談会」が実施されており、６月末までに５カ組が終了し７月に２カ組が実施される予定となっています。来年度は、その実施内容を整理し、センターと各組との連携について議論が行われていきます。

「復旧」ではなく「復興」への支援　飛騨御坊ボランティア委員会報告

飛騨御坊ボランティア委員会では、去る６月５日～６日、飛騨地区有志２２名でボランティア活動を行いました。今回は「災害支援北陸門徒ネット」と連携し、炊き出しと片付け作業が行われました。珠洲市馬緤町の炊き出しでは、居酒屋形式による懇親の場として実施されました。

「ありがとう！　また来てな」「また来るね！」。些細な挨拶の中に、ボランティアを通しての新たな関係が始まっていくことが感じられました。

２０２４年度「飛騨学場」開講　８月１日（木）～５日（月）

住職・坊守・寺族の皆さまの積極的な聴講が願われます。奮ってご参加ください。

（学場講義にはご門徒の聴講も可能です）

【本講】　1日～3日　「仏教と相応する聞③　～『浄土論』『浄土論註』が開く世界～」

講師　藤場俊基師（金沢教区・常讃寺住職）

【次講】　4日～5日　「お寺だからできる死別の支え」　講師　尾角光美師（一般社団法人リヴオン代表理事）

日＼時刻	6時半～	9時～	11時～	13時～	追弔会終了後
1日(木)	晨朝・暁天講座	開講式 講義（本講）　藤場俊基 師		寺族交流会　第１部（座談会）　16時～ 第２部（懇親会）　18時～	
2日(金)	晨朝・暁天講座	講義（本講）　藤場俊基 師		門徒･寺族　追弔会（本堂） 法話：藤元雅文 師	大谷大学同窓会総会
3日(土)	晨朝・暁天講座	講義（本講）　藤場俊基 師	研究発表 清見組満成寺　夏野晃遵 氏		
4日(日)	晨朝・暁天講座	講義（次講）　尾角光美 師	学場総会		
5日(月)	晨朝・暁天講座	講義（次講）　尾角光美 師	11時半～ 閉講式		

※　お斎はございません（午後日程のある日もお斎振舞いは御座いませんので各自ご用意ください）。

※　「施斎経・報恩講」は２日の追弔会のみとなります。

※　開講式・満講式に限らず、受講時も、白服・間衣・墨袈裟をご着用ください（学場長指示）。但し、当日諸役ある役員は洋服に間衣で可

※　学場の受講は「大谷派教師陞補」に必要です。

◆1日に「寺族交流会」（育成部会主催）を開催します◆

第１部:座談会(16:00 御坊会館)・第２部:懇親会(18:00 庫裡ホール)

第１部は、「なぜ、僧俗ともになのか」をテーマに課題共有の場として座談会形式で開催。**第２部**は、飛騨地区内寺族の交流の場として懇親会を開きます。第２部については、幅広くご参加いただきたく、お子さまの参加もお待ちしております。

【暁天講座】　1日～5日に開催　6時半～7時半　会場:高山別院本堂

日	演題	肩書	講師
1日	「無常の風きたりぬれば」	本講講師	藤場 俊基 師
2日	「いと厳しき奈威（地震）にて候　～安政飛騨大地震に学ぶ～」	飛騨地学研究会会長	下畑 五夫 師
3日	「真実（ほんとう）との出遇い　～親鸞聖人のあゆみに学ぶ～」	大谷大学准教授	藤元 雅文 師
4日	「喪失と共に生きる」	次講講師	尾角 光美 師
5日	「今、生かされている命を考える～みつめなおしてみませんか？ 大切な家族のこと自分のこと～」	NPO法人すえひろ代表	末永 賢治 師

↑ Webひだご坊
チラシPDF掲載

飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』７月

渡邊　陽子氏（清見組了因寺坊守）

藤森　　博氏（清見組一念寺住職）

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

WEB 一口法話はこちら

夏のつどい案内　飛騨御坊からの挑戦状

今年もアツい夏がやってくる！

7月22日（月）・23日（火）両日とも13:30～16:30　定員は30名

対象:小1～6年生　場所:高山別院　※詳細は『ひだご坊』7月1日号を御覧ください。

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院　2024年７月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場
1	月			
2	火			
3	水	13:00	別 三日の御坊　法話:日野 光洋氏（桂林教会主管者）	本堂
4	木	14:00	セ 帰敬式推進室	ミーティングルーム
5	金	14:00	別 半日華	
6	土			
7	日			
8	月	13:30 15:00	教 坊守会高山支部総会 別 院議会	研修室 御坊会館
9	火	終日	教 高山教務支所事務休止	
10	水	10:00 14:00	組 高山２組坊守会 教 解放推進協議会輪読会	研修室 センター室
11	木	13:00 19:00	別 大谷婦人会定例 法話:白尾　公信氏（了心寺住職） 組 高山２組組会	御坊会館 研修室
12	金	14:00 19:00	教 参事・常任・教区財務委員会・緊急対策委員会 セ 吉城組企画会議懇談会	研修室 誓願寺
13	土	7:00	別 前住上人ご命日	
14	日			
15	月	7:00	別 半日華	
16	火			
17	水	13:30	教 教区会　高山教務支所事務休止（～18日AM）	岐阜高山教務所
18	木	14:00	セ 高山１組企画会議懇談会	研修室
19	金	14:00	教 教区門徒会	高山教務支所
20	土			
21	日			
22	月	13:30	セ ごぼう夏のつどい①	
23	火	13:30	セ ごぼう夏のつどい②	
24	水	13:30	教セ 正副組長・組門徒会長会	研修室
25	木	9:00	別 おみがき	本堂
26	金	7:00	別 半日華	
27	土	13:00	別 御逮夜	本堂
28	日	13:00	別 親鸞聖人御命日　法話:野崎 尚斉氏（西正寺住職） セ 本山子ども奉仕団（～30日）	本堂
29	月	13:30	教 教区坊守会役員総会	照明寺
30	火			
31	水	13:00	別 学場準備	

2024年８月　**※中旬までの掲載とし、定例行事は省きます。**

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1～5			別 飛騨学場・暁天講座	6	火	19：00	組 高山２組教化委員会